

健康くまもと21推進会議 食の安全安心・食育部会
議事録要旨

開催日時：平成30年8月3日（金） 15：15～17：00

開催場所：ウェルパルクまもと1階大会議室

出席委員：13名（五十音順・敬称略）

坂本 公、澤村 裕美子、谷口 千代子、長濱 一弘、中村 智美、
平川 恵子、本田 一幸、牧尾 幸美、丸山 隆、三浦 勲、南 久則、
宮崎 留美子、山田 理佳

次第：1 開会

2 議題

(1)第2次熊本市食の安全安心・食育推進計画の進捗管理

(2)第2次熊本市食の安全安心・食育推進計画の評価（市民アンケート速報値）

(3)第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画の策定

ア 第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画体系図（案）

イ 第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画成果指標目標値（案）

ウ 第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画冊子様式（案）

(4)その他

3 閉会

議事（要旨）：

【議事進行】 部会長 南久則委員

《南部会長》

議題1「第2次熊本市食の安全安心・食育推進計画の進捗管理」について事務局より説明をお願いします。

《事務局》

－議題1 資料説明－

《南部会長》

議題1についての質問はないか。

資料議題1-1、P. 1平成29年度の取り組みの中で、HACCP（ハサップ）について食品事業者を対象とした個別指導を実施したとあるが、実際にはどのようなことを行ったのか。

《食品保健課》

まず全体的な講習会を実施。その後希望のあった事業者を対象に、実際に作っている製品についてHACCPの演習を行うといった個別指導を行った。また、日常業務の中で事業者へ立ち入る機会があるため、その際に相談があった場合にはHACCPに関する啓発資料の配布・説明を行っている。

《丸山委員》

質問ではないが、残留農薬の問題について、現在卸売市場でも出回っている生鮮食品に対して検査を行っているが、以前全国レベルで問題となった際に、行政も含め力を入れて対応した結果、現在では非常に安全性が高まっているという印象を持っている。

《食品保健課》

今年度実施した市民アンケート結果でも、残留農薬について不安を感じている市民の割合は減少している。

《南部会長》

青年期の朝食欠食率が高いという結果が出ているが、青年期以降の食習慣について、熊本市の特徴等があればご説明をいただきたい。

《健康づくり推進課》

若い世代については全国的にあまり望ましい食生活を送っていないことが課題であり、本市においても同様。朝食欠食率については、全国の若い世代が24.7%、本市の若い世代の欠食率は男性のみの値であるが20%程と、多少良い傾向にあるものの、全国同様課題が見られる。

《南部会長》

資料議題1-2、P. 1平成30年度重点的取組みの中で防災関連イベントとの連携が挙げられているが、防災と食育の関係はどのように考えるといいのか。

《西区保健子ども課》

具体的な事例としては、地震を受けて保育園に対しアンケートを実施。日頃から備蓄しておくべき食材等について具体的な意見を得た。また、子どもについては好き嫌いなくしっかり噛んで食べる習慣の重要性を認識。保育園において、災害時を想定した食事の実践を取り入れている。

《坂本委員》

保育園や認定こども園に対しては食品衛生研修会の開催や公立保育園の献立に関する情報提供、食の安全情報に関する情報提供等が行われているようであるが、私立幼稚園に対する取組み等については何かあるのか。

《保育幼稚園課》

公立保育園の献立について毎月市のホームページで情報公開し、食の安全に関する情報の周知を行っている。また、資料議題1-2、P. 4の「保育所での体験型食育」の取組みについて私立園の割合が公立園よりも低いことに見られるように、新たに設立された施設に対する食育の周知について今後力を入れていく必要があると認識している。

《本田委員》

先ほど事務局から話のあった非常食の体験について、保育園としても取り組んでいく必要があると考えている。2年前の災害時、水の補給ができず、給食の提供に非常に困った。市からの情報提供については保育所には十分に届いていると認識している。

《長濱委員》

資料議題 1-2、P. 1 平成 30 年度重点的に行う取組み②にある「栄養成分表示啓発チラシ」とは具体的にどのようなものか。一般市民に対しては栄養成分の説明から必要なのではないか。

《健康づくり推進課》

(実際のチラシを提示しながら) 市民の方があまり栄養成分表示を見ていないという意見から作成に至ったもの。チラシの内容としては、栄養成分の具体的説明ではなく、まずは栄養成分表示に気づいてもらうことを目的とした。商品を購入する際にパッケージや値段だけではなく、栄養成分表示も参考にしてもらうことを目標に、まずは興味を持ってもらうきっかけとなるよう、例として「血圧が高めの場合は食塩相当量を確認する」等の簡単な説明を加えている。

《長濱委員》

今のトピックスとして、熱中症対策等の説明があると伝わりやすいのではないか。

また、資料議題 1-2、P. 1 平成 30 年度重点的に行う取組み④の中で食品関連事業者と連携し、野菜摂取の取組みを行っているとの説明があったが、地産地消の観点から、市内の直販所と連携する予定はあるのか。

《健康づくり推進課》

野菜摂取の取組みについては現在、熊本市と連携協定を締結している企業から声を掛け、取組み始めたところ。また、先日市政だよりで野菜摂取啓発媒体の提供について掲載したところ。直販所等への声掛けはこれから行うことは可能。

《長濱委員》

熊本市の取組みなので熊本市と関係のある事業者と連携を取るといいのではないか。また、啓発媒体についても野菜を摂取すべき理由が書いてあるといいのではないか。

《三浦委員》

議題 1-2、P. 1 平成 30 年度重点的に行う取組み③の若い世代への食育啓発に関連し紹介。熊本高校では近年、高校 1 年生が地域の方々と一緒に調理実習を行う取組みを実施している。食育啓発や地域とのつながりを深めるために工夫されている。

《南部会長》

それでは、議題 2「第 2 次熊本市食の安全安心・食育推進計画の評価（市民アンケート速報値）」について事務局より説明をお願いします。

《事務局》

－議題 2 資料説明－

《南部会長》

今の市民アンケート結果を受け、議題 3「第 3 次熊本市食の安全安心・食育推進計画の策定」について事務局より説明をお願いします。

《事務局》

－議題 3 資料説明－

《南部会長》

事務局から第3次計画について説明があったが、この骨子案と成果指標については昨年度の食の安全安心・食育推進会議にて審議され、了承されたものであるため、大枠として変更は無いものと認識している。

今回は先ほどの市民アンケート結果を踏まえ、第3次計画の平成35年度の目標値について質問等はないか。

《牧尾委員》

資料議題3、P. 4 成果指標3「朝食欠食率」について、朝食を欠食する理由はアンケートで聞いているか。

《健康づくり推進課》

聞いているが、詳細項目についてのアンケート結果はまだ出ていない。次回の部会では結果を示すことができる予定。

《牧尾委員》

欠食の理由が分かると今後の対策も出てくると思う。

《山田委員》

指標については決まったものであるが、意見として言わせてもらおうと、資料議題3、P. 3 成果指標12「食に関するホームページへの情報掲載数」について、ホームページへのアクセス数を指標に入れるといいのではないか。成果指標16「食事・食品等に関する正しい知識や情報を得ようと努めている市民の割合」にもつながるため、参考指標としてでも入れていただければと思う。

《食品保健課》

ホームページのアクセス数を取ることは可能であるため、検討する。

《丸山委員》

要望と意見であり、回答は不要であるが、資料議題3、P. 3 成果指標9「健康危機管理研修会の開催数」及び11「健康くまもと21推進会議、食の安全安心・食育部会の開催数」については成果を得るための手段・行動であり、成果指標とするのに疑問が残る。

また、資料議題3、P. 2 食育推進のための取り組むべき施策に関して、食卓での食育は子どもの食育に非常に大きい影響を持っていると考えるため、「家庭での食育」「小さい頃からの食育」については是非力を入れて推進して欲しい。最近魚を食べる子どもが少なくなっており、市場でも水産関係の取扱量が減ってきている。健康食としても、魚食普及のためにも子どもに対する食育を進めていただきたい。

《長濱委員》

資料議題3、P. 3 成果指標21～25の食の安心感に関する指標について、アンケート項目は一般的な不安感ではなく、「熊本市民が熊本市内で購入する場合」に限定した内容となっているのか。

《食品保健課》

アンケート項目としては、不安を感じているものを例示項目から複数選択する内容になっており、特に熊本市で流通しているものを購入する際に限定したものではない。

《長濱委員》

今後アンケートをとる際は、「熊本市民が熊本市で購入する場合」に限定したほうがいいのではないかと。

《食品保健課》

不安を感じる場面について別項目でアンケートをとっており、スーパーや外食時等どこで不安を感じているのかは聞いている。

《長濱委員》

熊本市の卸売市場で行っている残留農薬の検査といった、安心安全の確保に向けた取り組みの成果が分かりにくいのではないかと。

また、食品添加物等、国内では安全性を確保されていても、なおかつ不安といった不安感が含まれているのではないかと。

《食品保健課》

そのような漠然とした不安感も含まれていると認識している。そのため、食品添加物の安全性等について、市民啓発を出前講座の中で行っているところである。

《長濱委員》

それを含めた目標値設定というのは難しいと改めて感じた。

《食品保健課》

確かに食の不安感については難しいところがあるが、地道な活動を通して食品添加物や残留農薬等に対する正しい知識を市民の方に知っていただきたいという思いで成果指標としている。

《長濱委員》

資料議題3、P. 4 成果指標 12「健康づくりできます店の登録数」について、登録された店舗が取り消されることや、店側から取りやめの申し出があることはあるのか。

《健康づくり推進課》

毎年度1回、登録店全店舗を対象に登録状況の確認を行っている。

《南部会長》

以上で本日の議事を終了し、進行を事務局に返す。

《事務局》

次回予定は、10月29日午前第2回食の安全安心・食育部会となっている。本日の議論を踏まえ、第3次食の安全安心・食育推進計画案についてご意見をいただく予定。

これをもって食の安全安心・食育部会を閉会とする。